

諏訪天文同好会活動と 自然科学教育の力



茅野勝彦

諏訪天文同好会

日本アマチュア天文史



諏訪天文同好会

1922年創立

神田清先生を迎えて

河西慶彦(1903-1961)

古畑正秋(1912-1988)

五味一明(1910-1990)

金森壬午

1926年撮影

自然探求の情熱 三澤勝衛先生

(1885-1955)

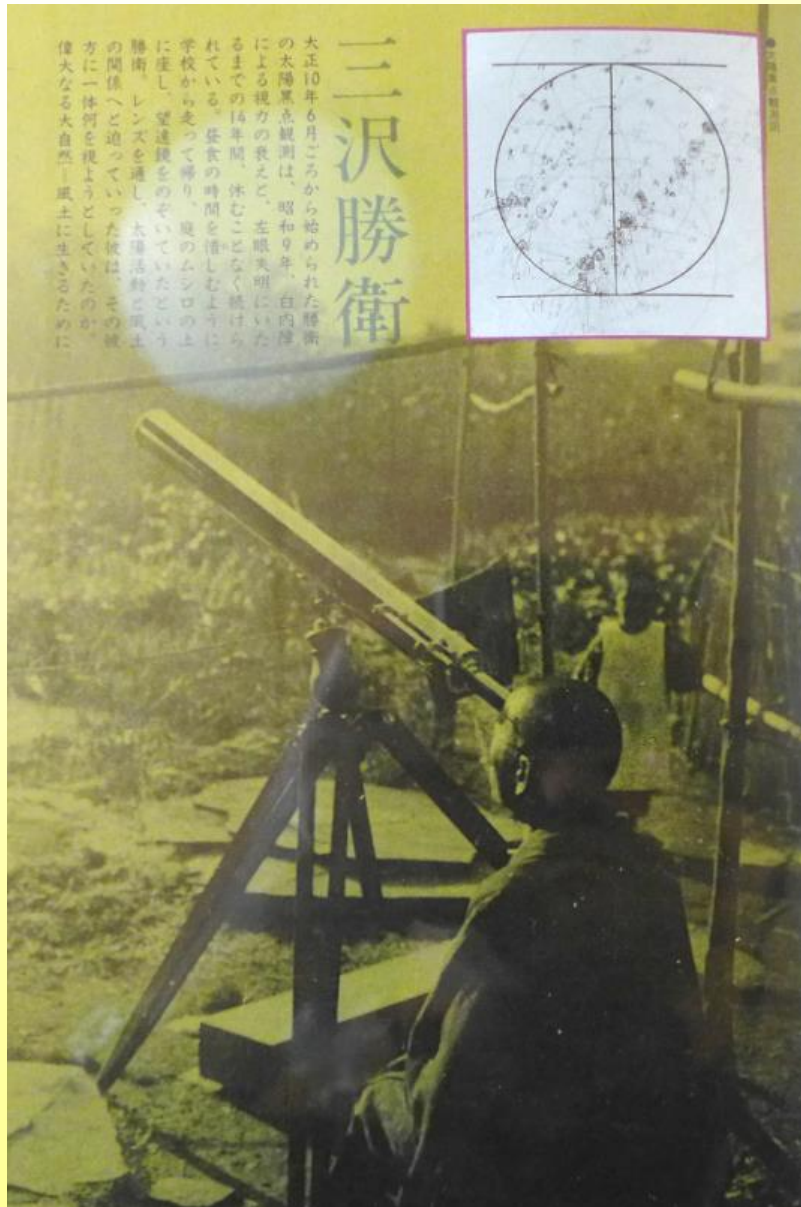
1920年諏訪訪中学に赴任

風土は大自然である。
この風土に正しく生きる人が
真にその風土を活かしえる。
風土産業の開発に貢献

自分で考えろ

フィールドスタ
ディーを重視

頭にノートしろ



三澤勝衛

大正10年6月ごろから始められた勝衛の太陽黒点観測は、昭和9年、白内障による視力の衰えで、左眼失明にいたるまでの14年間、休むことなく続けられている。昼食の時間を惜しむように学校から走って帰る。夜のマシロの上に住し、望遠鏡をのぞいていたという勝衛。レンズを通し、太陽活動と風土の関係へと迫っていった彼は、その彼方に一体何を視ようとしていたのか。偉大なる大自然「風土」に生きるために

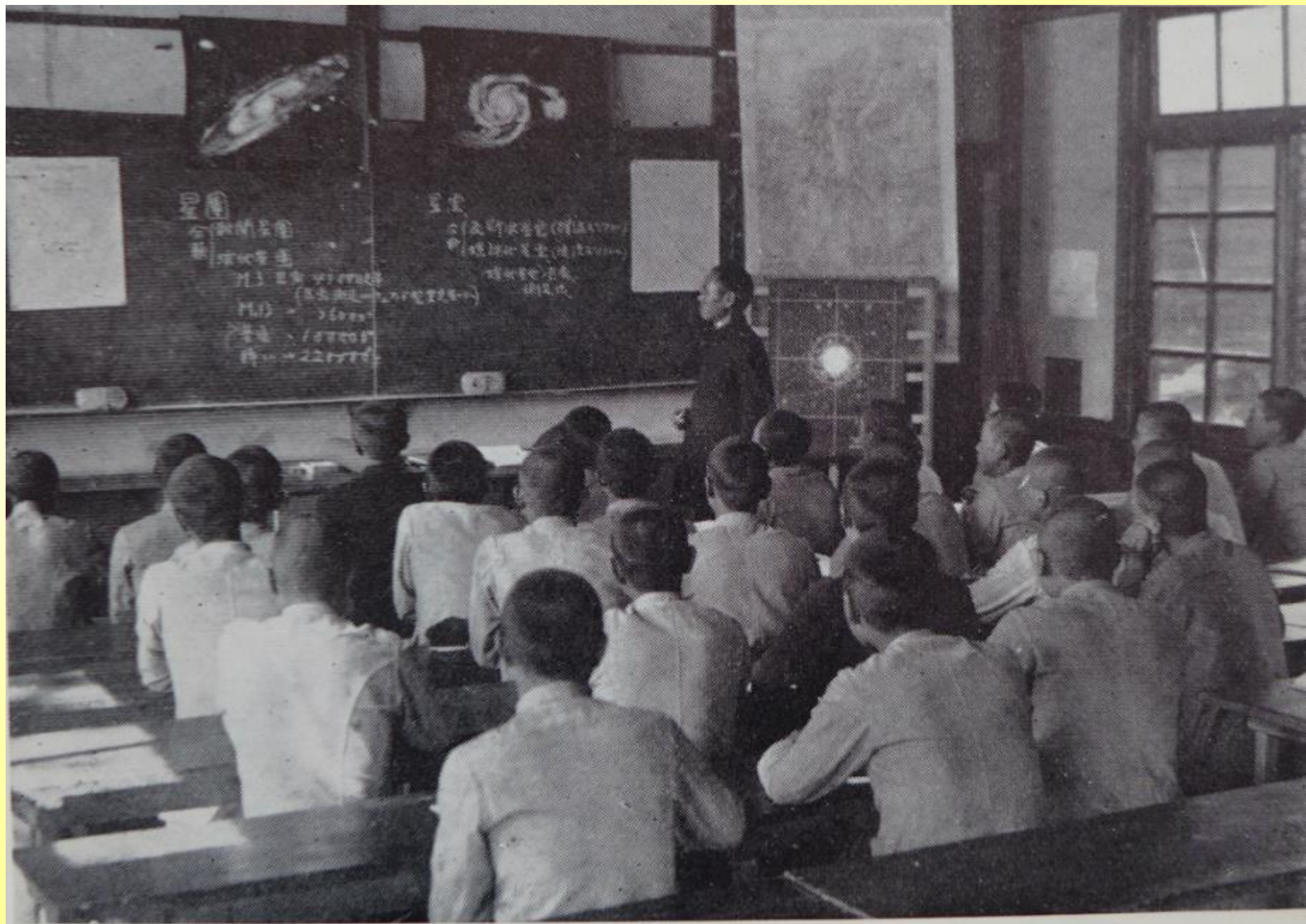
期を通して、
 る。諏訪湖
 を生んだ。
 ・新しい学
 訪中学校を
 学び方を学
 をもって語
 る生徒を奮
 た。

▼風土論草稿

風土
 風土は大自然である
 其のその大自然風土
 その土と土は正しく生きて
 居る人によつてこそ、初めて
 土にその風土を生かす
 土にその風土を生かす
 其のその土と土は正しく生きて
 居る人によつてこそ、初めて
 土にその風土を生かす
 土にその風土を生かす

▼太陽黒点観測を指導する師範(中央、腰掛けている人物)





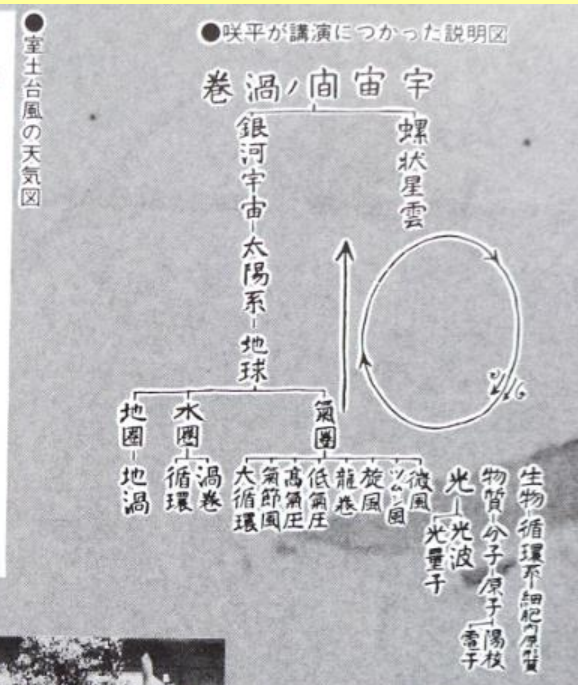
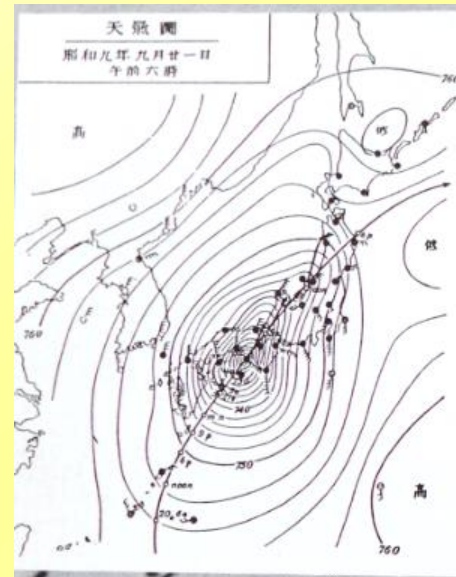
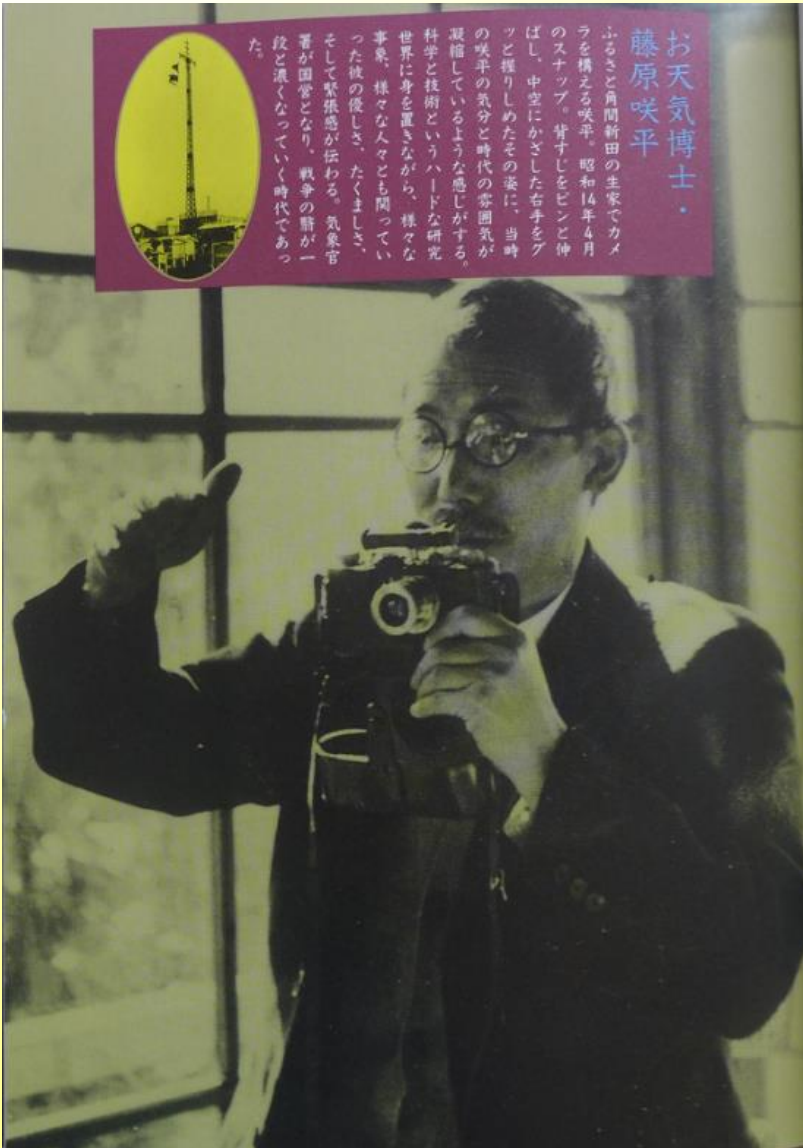
先生の地理授業

お天気博士 藤原咲平

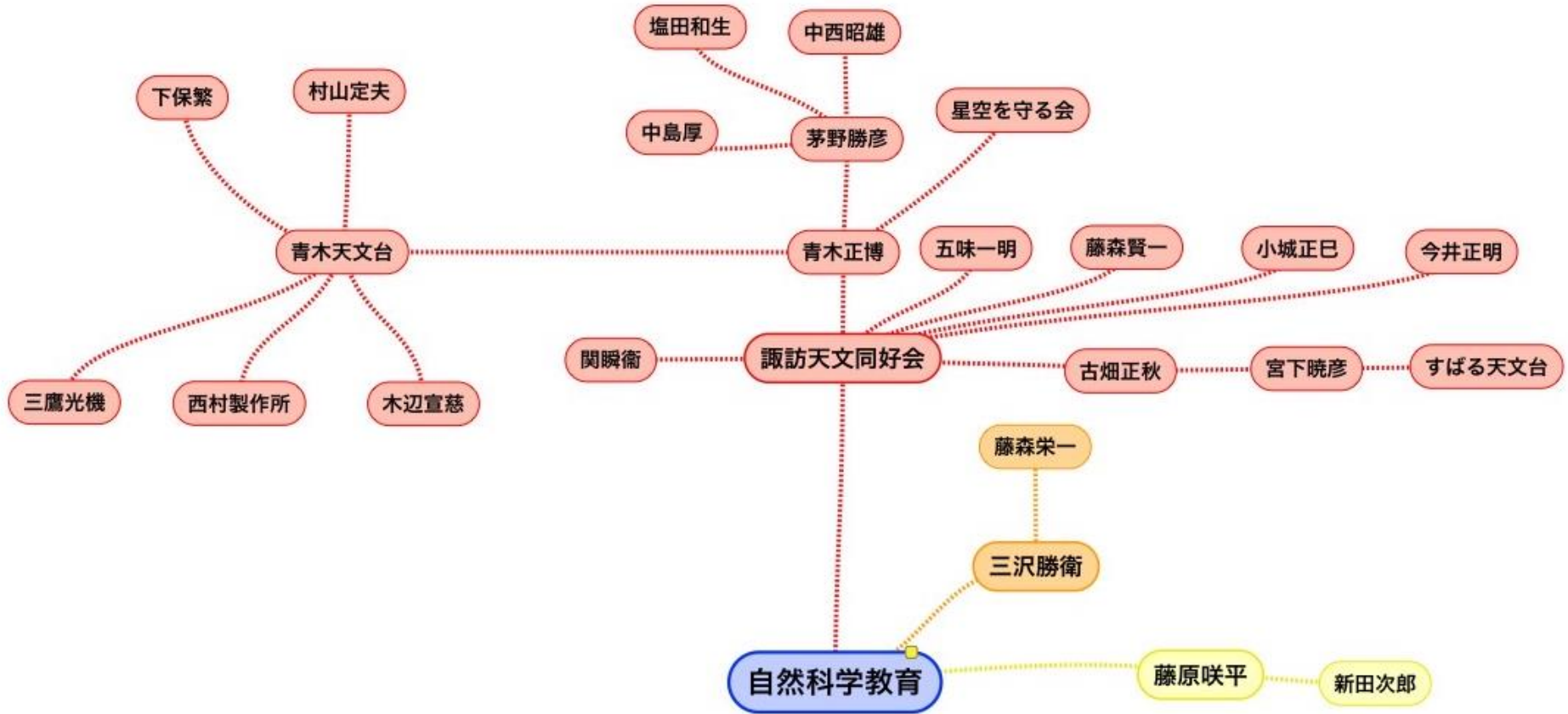
気象庁長官(1884-1950)

**お天気博士
藤原咲平**

ふるさと角間新田の生家でカメラを構える咲平。昭和14年4月のスナップ。背すじをピンと伸ばし、申空にかざした右手をグツと握りしめたその姿に、当時の咲平の気分と時代の雰囲気が見縮しているような感じがする。科学と技術というハードな研究世界に身を置きながら、様々な事象、様々な人々とも関わっていた彼の優しさ、たくましさ、そして緊張感が伝わる。気象官署が国営となり、戦争の翳が一段と濃くなっていく時代であった。



宇宙間の渦巻
銀河宇宙-太陽系-地球
地圏-水圏-気圏
大循環、高気圧、低気圧、つむじ風



在野の考古学者 藤森栄一 (1911-1973)



黎明期の
新道式土器



極盛期の
藤内I式土器



退嬰期の
曾利I式土器



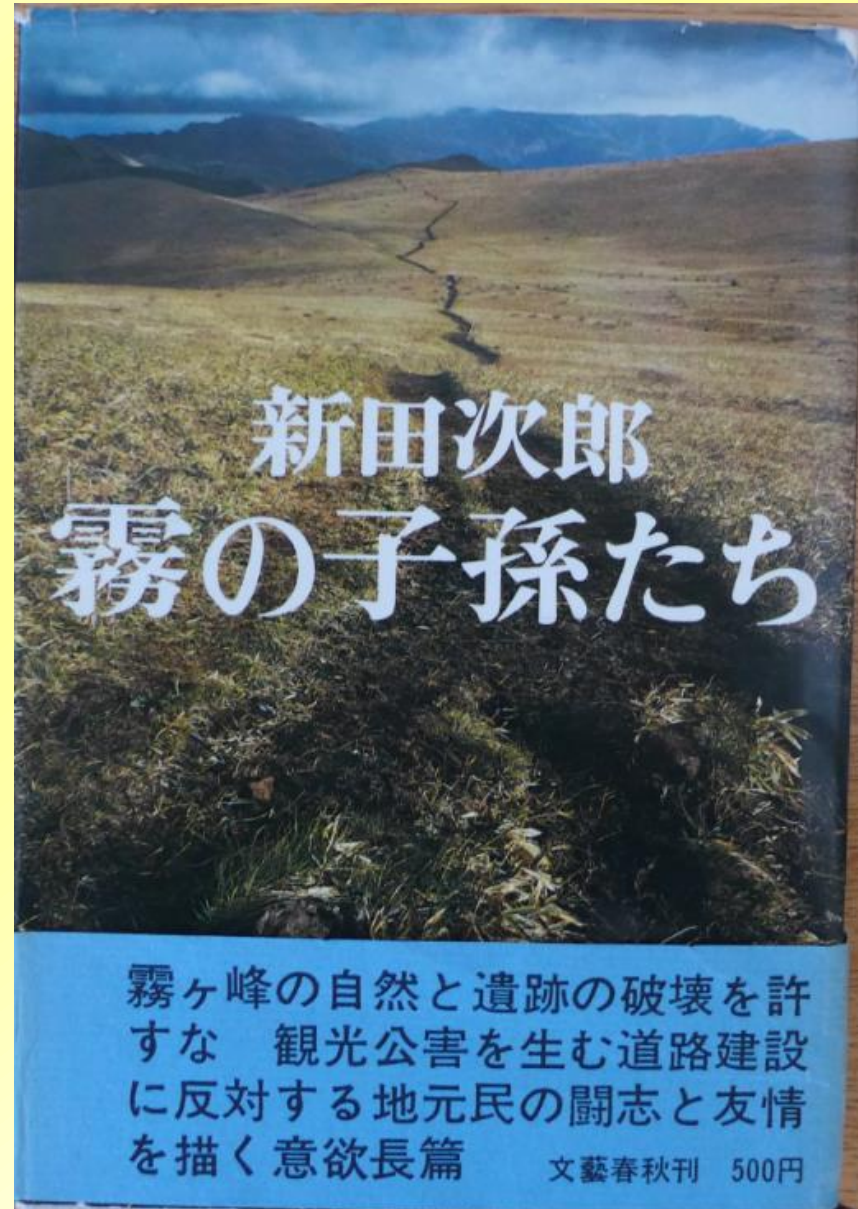
藤森栄一
三沢勝衛の教育と生涯

信州教育の盛衰

日本中になりひびいた
信州教育の実態は何か
少年の好奇に輝いた眼は
どうすれば育つのか？
教室は考える場ではなく
ノートの場合なのか？
学問とは理論でなく
実学なのか？
信州教育の栄光の灯を
血みどろになつて守つた
三沢勝衛の激しい生涯を
想いをこめて描く

定価 七八〇円

新田次郎 (1912-1980)



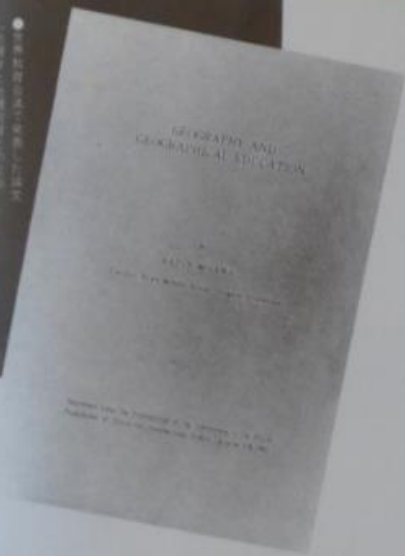
青木正博 (1920-1984) 仙台天文同好会 (1950年) 日本星空を守る会 設立



野に聴け、自然の物語を

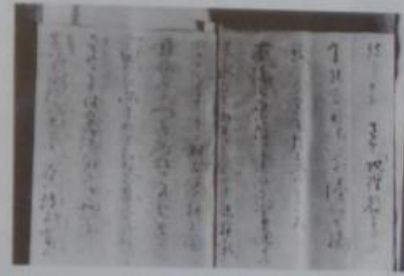
受け継がれるもの

藤岡の教室からは、彼の幅広い学問分野をそれぞれに
 継承し、各分野で活躍する多くの逸材が輩立っている。
 その生涯にわたって、学者・研究者として真摯に歩ん
 だ藤岡の姿勢が、専門分野の違いこそあれ、同じ学問
 を探究していく教え子たちに多くの感化を与えたのだ。
 藤岡の学問を郷土に根づかせ、普及していったのは、
 教師となった名知らぬ彼の教え子たちであり、それを
 実践していったのは、風土にふあった事業を興した経
 営者や農民たちであった。また、彼の影響下で育成さ
 れた街の天文字者も数多く、それら教え子によって、
 藤岡の学問と精神は、現代へと受け継がれている。



● 藤岡 一夫

● 藤岡 一夫の著書



諏訪の自然と文化を守る会



旧小田邸天文台ドーム

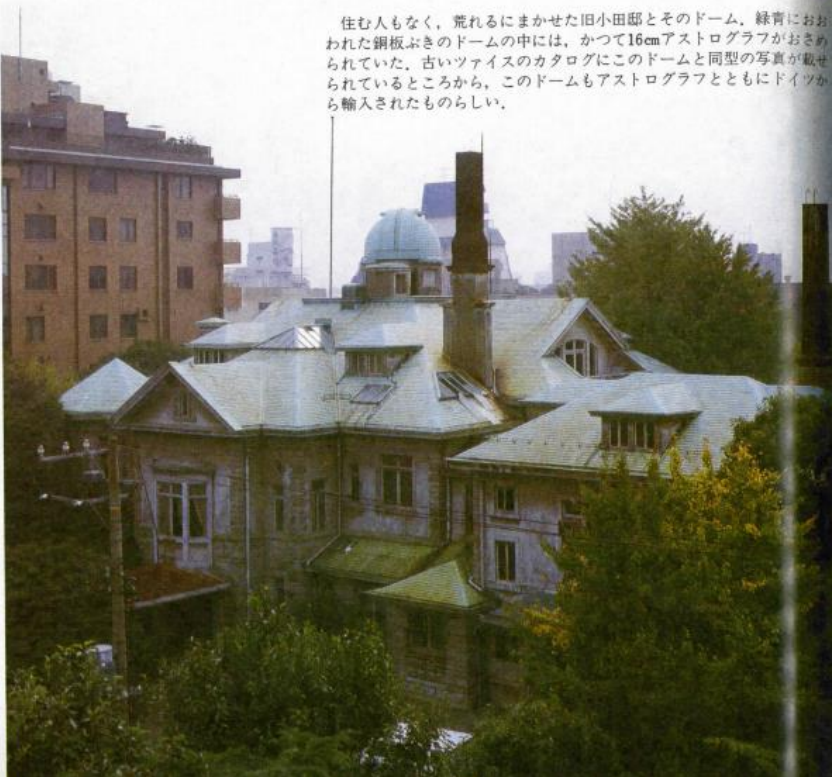
にぎやかな東京の街かど、六本木の近くとは思えないほど静かな麻布の一角、緑の木立にかこまれて豪壮な邸宅がひっそりたたずんでいる。いまは住む人もない小田良治氏の旧邸宅だ。天文ファンの目をひくのは、この建て物の屋上に緑色の小さなドームがのっていることだろう。昭和初期、いちやく自宅の屋上に天文台をつくった小田良治氏とはどんな人なのか、118ページの佐藤利男氏の記事を併せて読んでほしい。

協力/淡野史良 撮影/塚本タケシ

青木天文台に移された16cmアストログラフ



住む人もなく、荒れるにまかせた旧小田邸とそのドーム。緑青におおわれた銅板ぶきのドームの中には、かつて16cmアストログラフがおさまられていた。古いツァイスのカatalogにこのドームと同型の写真が載せられているところから、このドームもアストログラフとともにドイツから輸入されたものらしい。

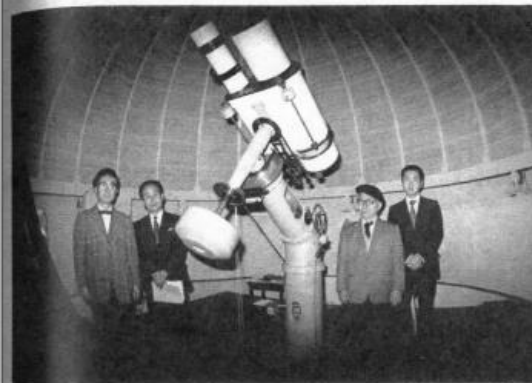


青木天文台で甦った 旧小田邸16cmアストログラフ

かつて、東京麻布の旧小田邸にあった16cmアストログラフは、戦後数奇な運命をへて、現在は長野県富士見町八ヶ岳南山麓にある青木天文台(台長 青木正博氏)で甦り、天体写真の撮影に活躍している。



▲青木天文台は標高1000m、長野県八ヶ岳南山麓の3000坪の敷地のなかにある。4mドームの中に16cmアストログラフがおさまられている。



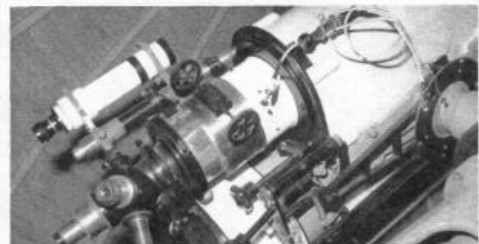
◀調査に訪れた佐藤利男氏(左から2人目)をかこんで、左端が台長の青木正博氏、16cmアストログラフの右は五味一明氏、青木病院事務長のみなさん。

▼長い間、古物商の庭さきに無残な姿をさらしていたこの名機は、古畑正秋氏、富田弘一郎氏、三鷹光器の中村正義氏ら、数多くの人々の手と、さまざまなきざつをへて甦った。

▼ツァイス製の口径16cmアストロベツツバル(焦点距離803mm)、16cm角の乾板で天体撮影ができる。



▼クラシックなこの構造、できるだけ原形どおりに復元してほしいという青木氏の要望で、三鷹光器で入念に再調整され、はじめてそのレンズで星の光をとらえることになった。



青木天文台開所式 1971.11.23



出席者

古畑正明 東京天文台長
村山定男 国立博物館館長
木辺宣慈 京都大(研磨)
藤森栄一 考古学者
佐伯恒夫 天文学者
下保 繁 三鷹光機(変光星)
西村繁次郎 西村製作所
今井正明 上諏訪教育長
五味一明 諏訪天文同好会
関瞬衛 諏訪天文同好会
樋口八重子 宇宙塵観測
市川一雄 記者
宮下明彦 すばる天文台

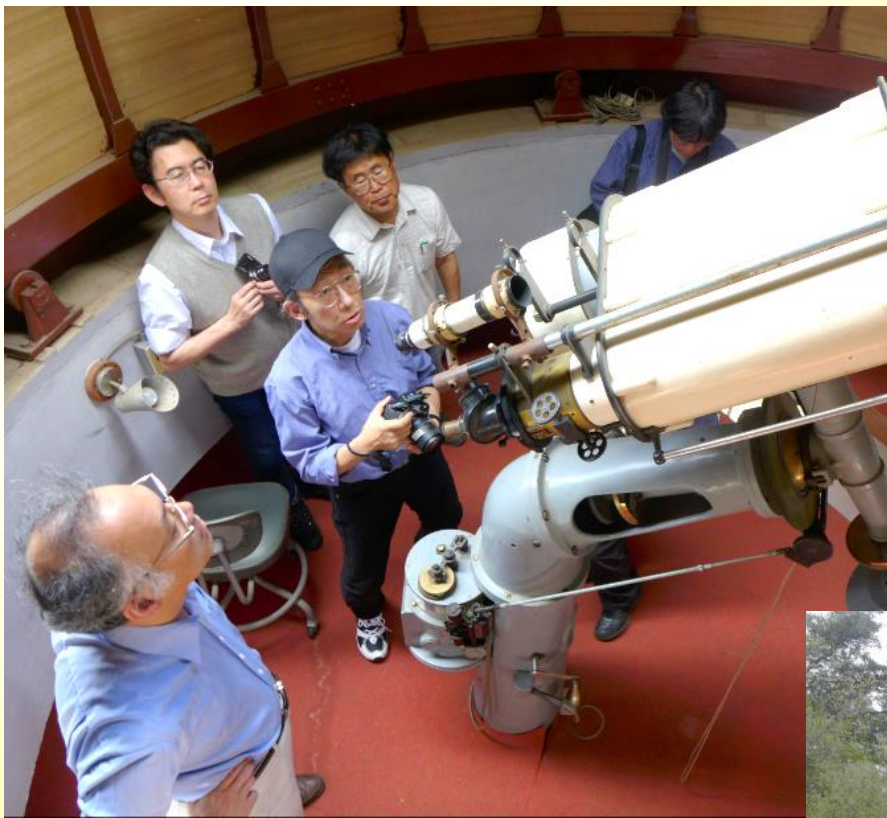
1974年 コホーテク彗星
1月10日撮影



日本アマチュア天文研究発表会



第8回大会記念写真 諏訪市民センター前庭。(1975.10.19)



青木天文台訪問

2017 05 06

諏訪天文同好会 2019

会長 小平昭彦

事務局 茅野勝彦

会員 藤森賢一 小城正巳

宮下暁彦 百瀬雅彦

畑 英利 小泉峰夫



コスモス

アイランド

オーロラ 撮影ガイド

撮影場所42地点紹介

畑英利 (HATA HEIKOSHI)

藤森賢一 2017. 3. 17 天文功勞賞受賞





ディクレー
宮下 暁彦

- ・長野県出身、趣味は写真、スポーツ
- ・以前は、東京にある国立天文台三鷹キャンパスに勤務。太陽系などの研究を進めながら、1980年代からすばる望遠鏡建設プロジェクトに参加、望遠鏡設置候補地の気象調査を担当。その後は、ハワイにてプロジェクトを支え、ドーム形状の決定やシーイング（星の見え方）の向上などに努めている。

— すばる望遠鏡では、どのような仕事をしているのですか？

ディクレーとしては、[観測装置交換](#)、[副鏡\(*\)交換](#)、望遠鏡の観測前点検などが主な仕事ですね。その他のテーマとして、すばるがより鮮明な星の像を得られるような観測環境の検討に取り組んでいます。

— 現在の仕事を志したきっかけを教えてください。

もともと天文や星は好きでしたので、高校生までアマチュア天文家だったんですよ。すばるで働いているというのは、ある意味、人生のめぐり合わせ見たいなものです。

— 仕事のない日は、どのように過ごしていますか？

毎週、ゴルフを楽しんでいます。[ハワイ島](#)にあるほとんどの場所は、観光してしまいましたので。

— ホームページをご覧のみなさんへ一言お願いします。

人生一生懸命やっているうちに色々と興味ある仕事やチャンスに出会えるはずですよ。すばるや天文学に限らなくても、同じことが言えると思いますよ。



1976 10 23
Australia Bonbara

塩田和生
中島厚
石橋彰
金田興一
白井正明

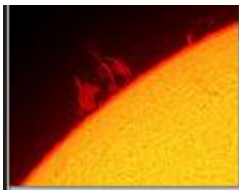


above: Both Japanese amateur and professional astronomers have a high attendance record at solar eclipses. Here spectators line the dirt before the eclipse were encouraging to some 30 Japanese who came together to observe at Bonbara.

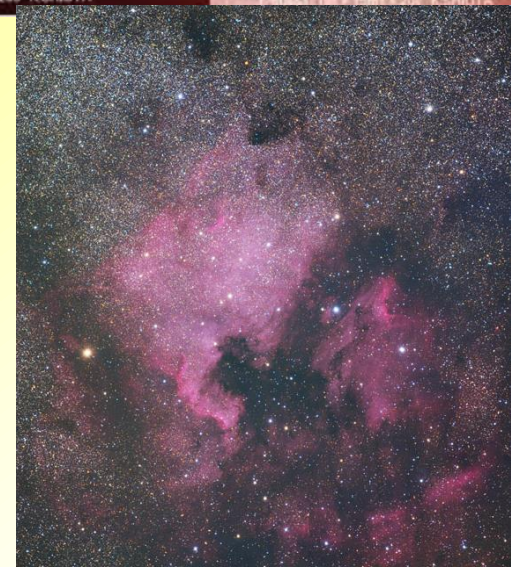
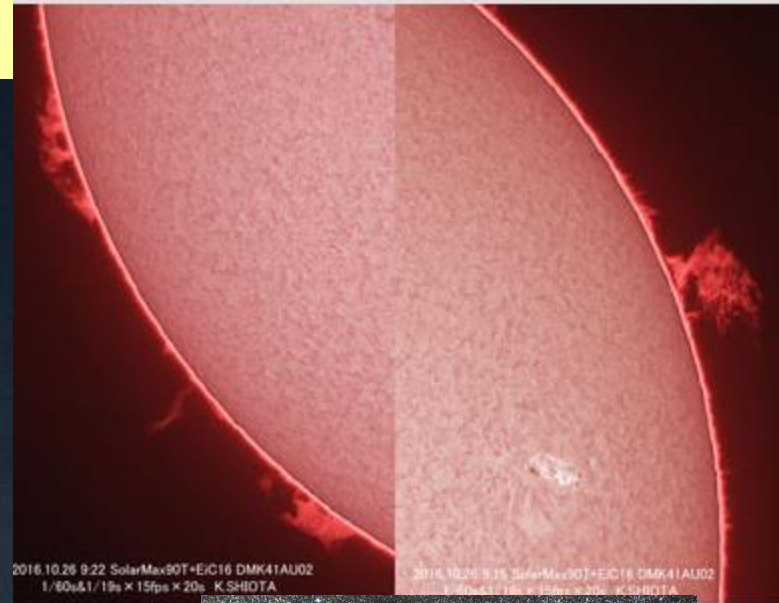
Left below: Kazuhiko Chino of Sowa City, Japan, prepared to film the eclipse with this specially driven telephoto system. The exposures were regulated by various neutral-density filters carried by the large frame in front of the lens. Other equipment included a camera mounted on the declination-counterweight shaft.

Right below: The clouds during studies did not interfere with the successful magnetic field experiment conducted by Phillip MacKenzie (left) and Manfred Giggster of Wollongong University. This experiment required several days of data taking. Aids from Wollongong were J. Stephens and C. K. C. Moore, who used photomultiplier tubes to record the changes in diffuse light intensity. Most of the drop in illumination, to 1/300 normal intensity, occurred within two minutes of sunrise, and the rise in sky brightness afterward was equally sudden.





塩田和生の 天体写真記録ノート



信州大学

「ぎんれい」プロジェクト



31 地域 2014年(平成26年) 11

信州ワイド

役割終える「ぎんれい」の光見よう

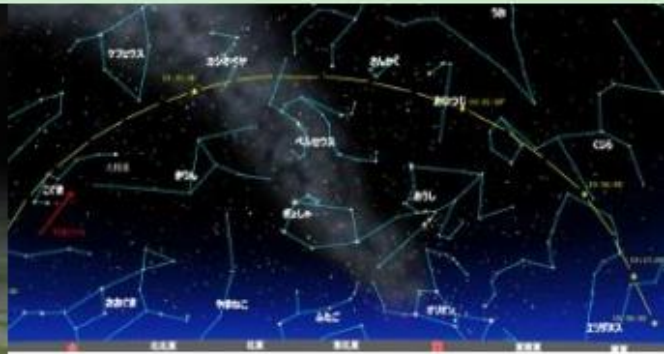
信州駒形小学人工衛星「ShindaiSat」(愛称・ぎんれい)が飛行準備を下げ、月内にも大気圏に突入し役割を終えるのを前に、諏訪地方の有志が7日、22日に諏訪湖畔で観測会を開くと決めた。諏訪地方のメーカーが提供した部品も搭載されており、一瞬でぎんれいの光を捉えたいと参加を呼び掛けている。

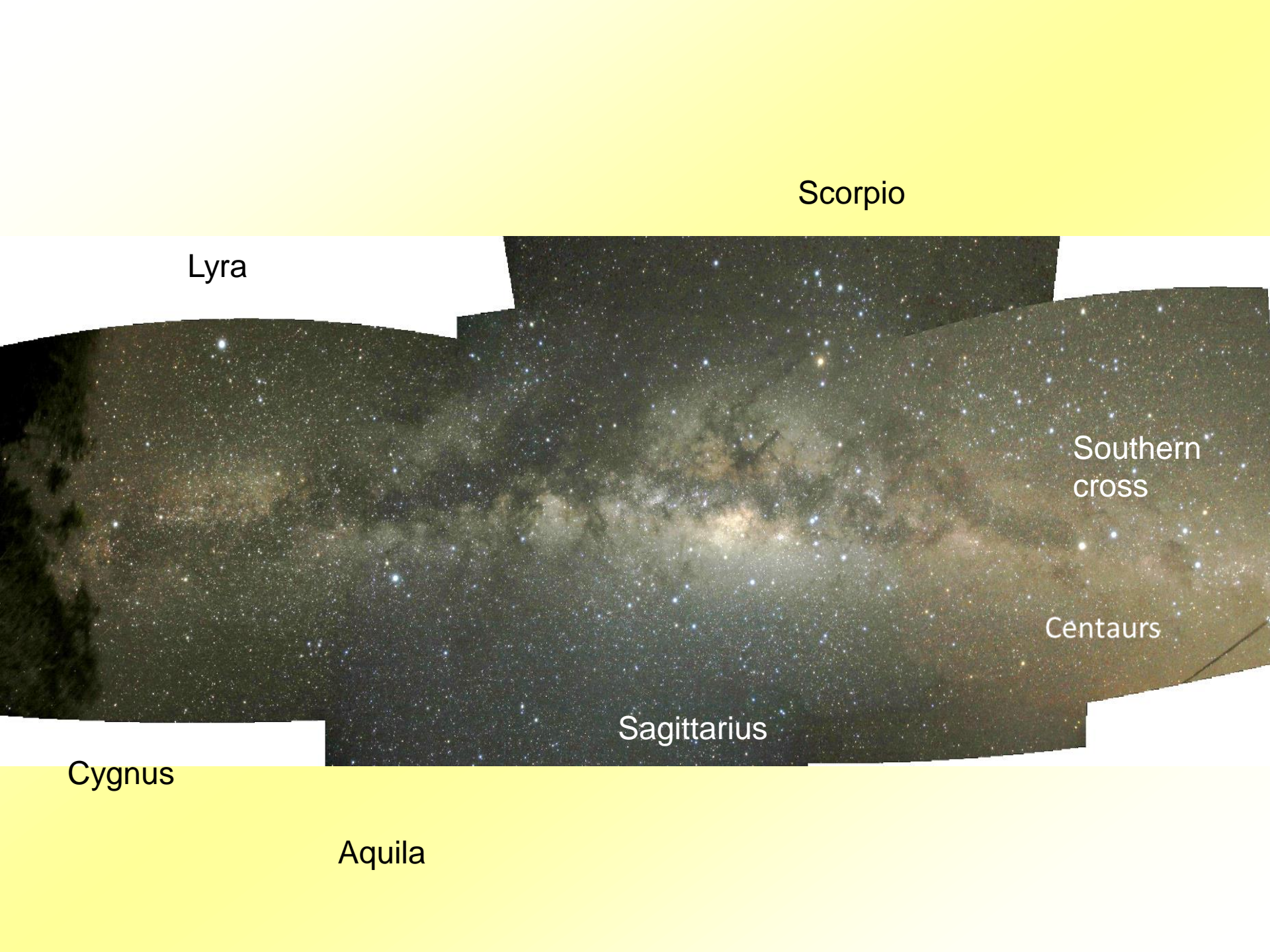
午後7時ごろ、岡谷南高校体育館に集合。7時半ごろに観測会が始まり、8時前後に北

岡谷 22日有志が観測会

ぎんれいを追う撮影装置を前に意見交換する諏訪地方の有志ら

西から東へと進んでいくぎんれいを観測する。地上から大型望遠鏡で光を捉え、軌道を追う可視光通信実験を行う。7日は諏訪湖原村などで繰り返し観測に協力してきた諏訪天文同好会の茅野勝彦さん(67)らが岡谷市内で会合。参加者は「ぎんれいは一般の人が平日に観心を持ちたり、ものづくり関係者が撮影や通信技術を高めたりするきっかけになっている」など話していた。観測会の問い合わせは岡谷市のインフォストラートネットワーク (Kokugyo・21・7200)へ。





Scorpio

Lyra

Southern
cross

Centaurs

Sagittarius

Cygnus

Aquila

天文教室では日本から見える星空と ZAMBIA で見える星空の違いや日食、月食、地球の自転公転や距離などについて話しました。とくに ZAMBIA で撮影した星の写真を紹介して、南十字星、マゼラン星雲、天の川の美しさなど説明しました。人工の明かりが全くない寒村の夜空に広がる星の煌きは何より代え難い素晴らしいもので、人の心を豊かにさせる貴重なものなのだと伝えられたらと頑張りました。

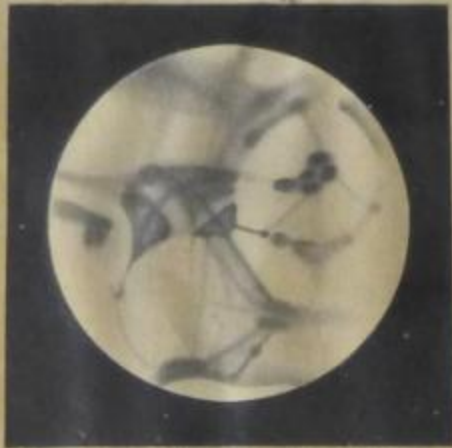


MIANJ in 1950

by T. Saheki, 20cm. R.L.



Oct. 13., $\omega = 358$, $\phi = -8.6$



Nov. 12., $\omega = 53$, $\phi = -12.8$



Nov. 6., $\omega = 115$, $\phi = -11.7$



Oct. 28., $\omega = 179$, $\phi = -10.2$



Sept. 13., $\omega = 255$, $\phi = +9.7$



Sept. 14., $\omega = 293$, $\phi = -9.7$

1976年 バイキング1号が撮影した火星(マリネ溪谷)



長野県は宇宙県

美しい星空が宇宙の始まりです。

観測技術が進歩しても

私達の見る星空は、いつまでも美しく
夢を子どもたちに伝えていきましょう！

日本人？地球人？
いえ宇宙人です。

